

CV22オスプレイの横田基地配備と飛行訓練中止を求める意見書

防衛省は、米空軍機CV22オスプレイ5機が、10月1日、米軍横田基地に正式配備されると発表した。2024年までには、残りの5機と450人の要員を配備するとしている。

CV22オスプレイは、構造的欠陥に加えて特殊作戦機であることによる事故率が高いなどその危険性は重大である。2010年4月8日、アフガニスタンで墜落したCV22オスプレイの事故では、死者4人、負傷者16人だった。

すでに横田基地では、CV22オスプレイが前倒し配備され、住宅、学校、病院、福祉施設などが密集している周辺地域で危険な飛行訓練が日常的に行われている。その内容は、離着陸訓練、パラシュート降下訓練、物量投下訓練、編隊飛行訓練、夜間飛行訓練などである。また、訓練空域は、横田基地以外にも、東富士演習場、ホテル区域（長野、群馬、新潟、栃木、福島）、三沢対地射爆撃場、沖縄などがある。

町田市は、米軍横田基地と厚木基地の中間に位置し、米軍戦闘機などが、飛行空路として町田市民に爆音の被害を長年にわたって与え続けてきた。また、この間、町田市の上空におけるオスプレイの飛行が確認されている。

横田基地に配備されるCV22オスプレイは、沖縄やグアム、アジア太平洋地域に所属している米各軍の特殊作戦部隊、これを輸送することを主たる任務とし、特殊作戦部隊は一般に、各種事態において、偵察や情報収集、テロ脅威への対処、人質の救出、奪還などに従事する（2015年6月22日参院決算委員会での中谷元防衛大臣の答弁）ことにある。

米軍の作戦のために、日本の首都東京と町田市の空が使用され、市民の命と安全が危険な状況にさらされてはならない。

よって、町田市議会は、日本国政府が、CV22オスプレイ横田基地配備と飛行訓練中止を米国政府に要求することを強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。